

卷頭言

医療に関する文章を書くこと

徳島赤十字病院副院長格 第二循環器内科部長 細川 忍

上のような題で文章を書くのは初めてであるが、この病院に来て多くの発表をさせて頂いてそのほとんどが何らかの形で文章にすることができた。これから論文を作成する方への一助になればと私の経験を紹介する。

この病院へ来た頃、当科では全員が地方会、総会で毎回発表していた。上司には学会発表の1か月後には論文を作成し、提出することを義務付けられていた。金曜日の夕方に提出し、週末ホッとしたのも束の間で月曜日には真っ赤に修正され、全く違う文章になって返ってきた。修正し再提出することを数回繰り返した後、投稿が許可される。査読が返ってきて2週間以内に返してないと大変で叱咤激励（罵詈雑言ではない）される。しかしその後、採択されて紙面になったときや別冊がもらえた時の達成感は、それまでの苦勞を差し引いても有り余るものがあった。

また、以前勤務した同僚は学会発表の時にはすでに論文が完成していた。予行や学会で質問された内容を論文に追加して投稿し、数年の在籍で10篇以上の論文が採択された。現在も有名誌に採択される論文を短期間で執筆し、日々努力している若手をみると頭が下がる。

概して論文作成には多くの時間と努力が必要であるが、得るものは非常に大きい。また、たった1例の症例報告が大発見につながることもよく聞く。近年、症例報告のできる和文雑誌が減ってきていることから、この院内誌は重要な役割を担っている。いつかこの雑誌から大発見を導くような文章が出ることを期待している。

